

松江市小中一貫教育だより NO.14

小中一貫教育推進係 文責：安部

松江市のふるさと教育(今年度の取組紹介)

学校でのコロナ感染も一時と比べたら落ち着きを見せ、学校行事に加え、校外活動も工夫を加えながら実施されるようになりました。各校で行われている「ふるさと教育」もその地域ならではの活動が行われ、そこに関わる地域や保護者の方、子どもたちのすてきな笑顔を垣間見ることができます。

最初に紹介するのは、佐太小学校3年生の「ふるさとものづくり教室」(3年生)のゴズ釣りです。子どもたちは、地域の方が竹を切って作った竿を使い、学校前の佐陀川で釣りをしました。「釣れた!!」と大声を張り上げ、子どもたちはとてもうれしそうでした。そして、釣ったゴズを地域の方がさばき、その場でてんぷらに。自分たち



のふるさとで、自分たちの釣ったゴズを食す…みんな「おいしい、おいしい」と誇らしげに食べていました。

※ハリス、針、餌、てんぷら油、塩代は、ふるさと教育予算より支出

このゴズ釣りですが、実に多くの学びの要素がありました。地域の人との関わりを始め、えさをつける、友だちと距離をとる(自他の安全)、風を感じ仕掛けが絡まらないように投げる、川底に仕掛けが引っ掛かった時の対処、同じ川でもどの辺が釣れるか周りを見ながら探る、釣れた時の喜び、ハゼを針から外すこと、そして、仲間との協力で釣れるまで粘り強く待つことなどなど。この学習では、仲間や地域の人との関りを深めながら自分たちのふるさとを知る良い時間になったと感じました。

続いては、「松江城授業プロジェクト」の紹介です。



古江小学校の6年担任の錦織先生は、「松江城の魅力を発見し、ALT のカイ先生に伝えよう」という単元を組んで学習を進めました。「松江城をよく知らない ALT に魅力を伝える」という目的意識をもって松江城見学に出かけた子どもたちです。学芸員の先生の話をしっかり聞き、メモを取り、考え、時には質問をするなど意欲的に学習に向かう姿が見られました。そして、見学後には多くの松江城の魅力から伝えたいことを考え、担任の先生が撮った写真から必要なものを選び、伝えるための原稿(英文混じりの文)づくりをしていきました。

ALT のカイ先生に松江城の魅力を伝えていくプレゼンでは(左上写真)、どの班もタブレットを駆使してつくった資料を元に、身振り手振りを交えた英文に小道具も使いながら上手に伝えていました。互いに認め合う学級の温かい雰囲気の中での発表会、カイ先生は初めて知る松江城の魅力や秘密に驚き、満面の笑みでした。しっかりと伝えることのできた子どもたちはいうと…こちらやりきったことの満足感でいっぱいでした。

「松江城に行って終わり」ではなく、「相手意識をもったプレゼンの場」を設定することで、松江城で学んだことが確かな知識として認識され、自己表現力やコミュニケーション能力の育成が図られるなど、学びはさらに広がっていくと思います。体験的な活動からどのような子どもたちにしたいのか思いや願いをもち、それを実現させるためにマネジメントをしていく大切さを改めて感じさせられた時間でした。

今回は2つの学校の取組を紹介しました。どちらも子どもたちのより良い育ちをめざし、見出した身近なふるさとの価値と結びつけながら学習を進めていました。このような学習の積み上げが「これから生きるのに必要な力の獲得」と共に、「ふるさと松江を愛する子どもたちの育成」につながっていくのだと感じました。